

## 「食」の育ちを大切にします



「おいし  
い〜!!」。給食やおやつの時間、友達と共有する食の体験  
は、子どもたちに食べることの喜びを実感させ、生きる  
力の基礎をかたちづくっていきます。食べること。それは健やかな保  
育を支える大切な柱のひとつです。

幼い頃は、「味覚」が育っていく時期でもあります。天然の出汁を  
ていねいにとった薄味仕立ての給食を友達と一緒に味わいながら美味  
しく幸せに食べることで、子どもたちの健康的な味覚が育まれていき  
ます。

時には、園庭で育てた野菜を自分たちで料理してみることも、保育  
園ならではの取り組みでしょう。苦手だった野菜も、「自分たちで育て  
た!」「自分たちで料理した!」となったなら、どの子も好き嫌いなん  
てクリアして、友達と一緒にほおぼるにちがいありません。

そして、各園とも、子どもたちのおやつ・給食の調理担当者（栄養  
士・調理師）は、保育全体の様子を把握しながら、成長に必要な栄養  
素のバランスを考え、給食やおやつのメニューを計画立案し、旬を意  
識した新鮮な食材を仕入れるところから、健やかな食を支えています。  
そして、時には子どもたちの食べている様子を見守ったり、一緒に給食  
などを食べて子どもたちとの会話を楽しんだりもします。

もちろん、衛生的な環境で調理することは当然ですし、アレルギー  
児への配慮も十分に行っています。「食物アレルギー」については、本  
人だけではなく周囲の子どもたちも理解できるように働きかけつつ、で  
きるだけ無理のない範囲で食事を楽しめるように気を配っています。そ  
うした保育園での食経験から子どもたちは、配膳の仕方、食事のしか  
た（スプーンや箸の使い方）、片付けの仕方など、暮らしに欠かせない  
食事時のマナーも自然と体得していきます。

## 小さなトラブルも、育ちの糧にしていきます



## 保

保育園は、子どもたちが集団で育っていく場です。小競り合いのような小さいトラブルからダイナミックなけんかまで、いろいろとやらかしてくれることも日常です。

新入園したばかりで慣れない頃、また、1歳の頃などには、子どもたちの間で「かみつき」「ひっかき」がしばしばみられます。それは、言葉でのコミュニケーションがまだまだ思うようにならないだけに、つい、手や口が出てしまうのです（おしゃべりの口、ではなく、噛んでしまう方の口）。どんな時でも保育士は子どもたち全体～一人ひとりを見守ってはいますが、見張っているわけではありません。不意をついたかみつきやひっかきの発生はどうしても起こりえるのです。大事に至るようなケガであれば日頃の医療機関との連携を活用してすぐさま手当に動きませんが、気持ちの問題で収まりそうな場合は、むしろ、「噛んでしまった子ども」「噛まれてしまった子ども」両方の気持ちの問題を大切にとりなしつつ、案じている保護者にも適切に状況を伝えていくようにしています。

こういう人間関係のトラブル対処も、プロフェッショナルたる保育士の重要な仕事のひとつなのです。

## COLUMN

最近、子ども同士が取っ組み合いのけんかをしなくなりました。話し合いで解決しよう。それは確かに間違っていないと思います。先生に判断してもらってどちらか悪い方が謝ろう、そうして、いいよと許してあげよう。けれど、けんかをする中で人は仲直りの仕方を学ぶのではないのでしょうか。

保育園が、子どもたち誰もがのびのびと自分らしくいられる場でありたいとしたら、時にトラブルも起こって当然。場合によっては先生（保育士）の力も借りて、あるいは、年長さんくらいになったなら子どもたち同士で解決していくような力もつけていきます。それが、子どもたちがみんなして育っている保育園の「子ども集団の力」ともいえるのではないのでしょうか。

## 防災訓練を定期的に行っています



## 地

震、火災、水害…災害は思いも掛けないときに起こります。そのために日頃から重要な「防災訓練」。まだ歩けない子どもたちは職員が抱きながら背負いながら、また、判断する力がついてきた年齢の子どもたちは、自ら避難の際の意識をしっかりとち行動できる力を備えるためにも、日常的に訓練を重ねています。そのために、事故や災害に適切に対応できるよう各園ともマニュアルが整備され、全職員に周知。定期的な避難訓練、消火訓練も適切になされています。朝夕の在園している子どもたちが少ない時間帯であっても、職員はかならず2人以上配置し緊急事態に備える体制をとっています。

総面積約58km<sup>2</sup>もある世田谷区は、南は多摩川に沿い、また、商店などが密集している繁華街もあるなど、それぞれの地域の特色が豊かな自治体です。それだけに、「防災対策」といっても一律ではありません。中には、地域の町内会などと連携を組んで、いざという時に助け合う関係性をもっている園もあります。

## COLUMN

保育園への入園を希望して施設見学する際には、「その園ではどのような自然災害などを想定しているか。そのためにどのような避難訓練をしているか」について、ぜひ尋ねてみましょう。その他、どのような防災対策を講じているか、ていねいに聞いてみることをお勧めします。

区が出している防災パンフレットも参考にしましょう

●災害時区民行動マニュアル(マップ版)  
アプリ版もありますので、ダウンロードして、いざというときに避難場所がわかるようにしましょう。







## 運営・経営責任者は、 スタッフの労働環境にも配慮しています



## 保

護者のみなさんの勤務時間が9:00～17:00の場合、  
通勤時間などを含むと、子どもたちはそれ以上に長い時  
間を保育園で過ごします。すると、その子どもたちの保

育園生活を担っている保育者が必要とされる時間はもっと長くなりま  
す。また、土曜日に勤務がある方のための土曜保育や休日保育を担う  
こともあります。保育士は誰も子どもたちの日々の絶え間ない成長  
を見守りますし、子どもたちがおかれた家庭や社会的背景の状況を判  
断して、深い愛情をもって身を粉にして接する時もあるでしょう。そ  
のため時には疲労の蓄積もあります。

そのような保育士が、子どもたちの前で穏やかな笑顔でいるため  
には、どうしても、日常的休息や必要な生活が保障されるだけの処遇が  
必要です。また、リフレッシュする時間も必要でしょう。

そして、前項でお伝えしたように、保育士は常に学び続ける存在で  
す。その学びの時間も保障されてこそ、保育士は着実な力をつけてい  
くことができます。十分な休息や処遇が考えられてこそ、子どもたち  
に対して専門職としての保育士の取り組みが実践されていくのです。

